

シンポジウム

現代世界 — 欧州・中東 — を《文学》から考える

2016年3月19日(土)

13:30 - 17:30
(13:00開場)

京都大学(吉田南キャンパス) 人間・環境学研究科棟 地下講義室
《参加費無料・申し込み不要》

I. 総論 13:30-14:00

岡 真理(京都大学、アラブ文学)「文学、この迂遠なるもの」

II. 各論(1)——中東編 14:00-15:00

1. トルコのクルド人

磯部加代子(トルコ語クルド文学翻訳家)

「囚われの故郷で—忘却の民の叫びと沈黙」

ブルハン・ソルメズ『イスタンブル、イスタンブル』

2. シリア — 民衆蜂起と内戦

森 晋太郎(アラビア語通訳・翻訳者、東京外国語大学)

「牢獄の壁の落書—包囲下の街で」

ムスタファー・ムーサー「なんていい人たち」『虐殺の花瓶』など

III. 各論(2)——欧州編 15:15-16:15

3. ドイツの中東移民

鈴木克己(東京慈恵会医科大学、ドイツ文学)

「もうひとつの冬物語 — 望郷、追われし者の心の疼き」

ラフィク・シャミ『ノフィア、すべての出来事のはじまり』

4. フランスのマグレブ系移民

石川清子(静岡文化芸術大学、フランス文学)

「〈憎しみ〉や〈服従〉から遠く離れて—はざま、亀裂としての〈郊外〉を読む」

レイラ・セバル『ファティマ、辻公園のアルジェリア女たち』、ヤミナ・ベンギギ『移民の記憶』

IV. パネルディスカッション 16:15-17:30

主催: 中東現代文学研究会 / 人間・環境学研究科 学際教育研究部

科学研究費基盤研究(C)「中東現代文学における「ワタン(祖国)」表象とその分析」